

帰国生徒(外国学校就学経験者)入学試験

国際関係学部 アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科	志願者数	合格者数
アメリカン大学・立命館大学国際連携学科	3	3

(2) 本入学試験の目的

本入学試験では、国際関係学部 アメリカン大学・立命館大学国際学学科への入学を志望し、キャンパスの内外で効果的なリーダーシップを発揮できるグローバルなマインドと国際社会の諸問題を分析するために必要な基礎学力を有する学生を受け入れるための入試です。また国際社会の諸問題に関心を持ち、日米双方での学修を行って、卒業後、友好的で相互に有益な東アジアおよび日本と米国の関係発展ならびに国際社会の平和と繁栄に貢献する意欲と可能性を秘めた方の選抜を目的としています。

2. 試験内容

(1) 書類選考

英語外部資格試験のスコア、成績証明書ならびに以下の2つのエッセイを総合的に評価しました。

エッセイ 1 : Write reason(s) why you want to study International Relations in American University-Ritsumeikan University Joint Degree program by referring to your personal experiences (About 400 words)

エッセイ 2 : Select an issue which the Asia-Pacific region is currently facing, describe its back ground and trials/efforts to solve it. Also, explain your own opinion on prospect for the issue (About 600 words excluding title and reference list)

(2) 個人面接

英語による面接試験を実施しました。

3. 出題の意図

(1) 書類選考

上記で示した2つのエッセイの意図は以下の通り。

1. エッセイ 1 は、受験生が本学科で学ぶことに高い意欲を持ち、本学科の育成目標やカリキュラムを理解して出願しているのかを確認するために出題しました。
2. エッセイ 2 は、受験生が現代の国際社会、特にアジア・太平洋地域が直面する課題についての高い関心と一定の知識を持っているか、また国際社会の諸問題に取り組む基礎学力、論理的思考力、および英語での文章作成能力を有しているのかを確認するために出題しました。

(2) 個人面接

英語による面接試験では、受験生が、①立命館大学とアメリカン大学で学ぶために十分な英語運用能力（特に会話能力）があるか、②自らが執筆したエッセイの内容について、口頭で論理的に説明、議論できる基礎学力およびコミュニケーション能力があるか、③国際社会の現代的諸問題について、様々な文化的背景を持つ学生と共に学び、複眼的に捉える力を養い、自らを高めたいという強い意欲があるか、を確かめることを意図して行いました。

4. 評価のポイント

(1) 書類選考

書類選考では、提出された出願書類（英語外部資格試験のスコア、成績証明書、エッセイ）を総合的に評価しました。受験生が本学科での学習に必要なとされている基礎学力と英語運用能力を有しているかについて、英語外部資格試験や成績証明書にもとづいて評価しました。

また、提出されたエッセイの内容をもとに、国際関係、とくにアジア太平洋の課題に対する関心、知識、議論を組み立てる力、問題解決志向について評価しました。

エッセイ①については、志望動機が明確かつ具体的であるか、自らの体験を大学での学習に関連付けて論じているかを中心に評価し、エッセイ②については、現代国際社会、特にアジア・太平洋地域の現代的諸問題についてどのように理解しているか、多角的に捉えているか、英語で論理的に文章を構成できているかといった点を中心に評価しました。

(2) 個人面接

英語での面接を通じて、以下の7点について評価しました。

- ①志望動機が明確であるか。
- ②英語による専門科目の履修に十分な英語運用能力があるか。
- ③面接者の質問を正確に理解し、意見を論理的に述べる力があるか。
- ④大学での学びを支える基礎学力があるか。
- ⑤国際社会で将来活躍できるような適応能力が認められるか。
- ⑥日米両国を横断して多文化が融合する本学科特有の「学びのコミュニティ」において文化の異なる学生と協働して学習に取り組むことができるか。
- ⑦また多くの課題をこなし、本学科を修了できる胆力があるか。

5. 解答状況

(1) 書類選考

今年度より英語外部資格試験のスコア要件を設けたことから、一定基準以上の英語運用能力がある受験生が出願してくれました。また、受験者が帰国生徒であるため、自身の海外での体験や経験を交えて論述していました。国際社会で数年間生活し、学校や日常生活を通じて気づいた国際社会の諸問題および自身の関心について、具体例を交えつつ論述していました。

(2) 個人面接

受験生全員が海外での滞在経験（留学を含む）があり、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことに意義を見出し、アメリカと日本の両国でさまざまな国からの留学生と切磋琢磨する機会を求めている点が特徴的でした。また、アメリカン大学とのジョイント・ディグリー・プログラムの特徴やねらいを理解し、留学経験を含むこれまでの経験にもとづいた問題関心と将来の目標・ビジョンについて、英語で説明することもできていました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

成績証明書については全教科について丁寧に審査します。したがって英語科目だけでなく、学校での日頃の学習を大切に、基礎学力を養ってください。TOEFL iBT®やIELTSをはじめとする英語外部資格試験スコアも重要な判断材料となります。早い段階でこれらの試験の準備を始め、余裕をもって受験しておくことをおすすめします。なお、入試の出願条件として課す英語スコアとアメリカン大学での履修に必要な英語スコアが異なることにも注意してください。

また、新聞やテレビ、インターネットで取り上げられているニュースや国際問題に眼を向け、その問題について疑問を投げかけ、自分の頭で考える習慣をつけましょう。最近は多くの国のニュースが英語で発信されており、スマートフォンやタブレットで読むことができます。とくに興味のある問題については、日本のメディアから発信される情報だけでなく、該当する国のメディアや関係諸国ではどのように伝えられているかを知ることが重要です。また、本入試の受験生は海外での生活ならびに

学業を経験している方が想定されるため、自身が滞在されている（いた）国・地域の諸問題に対しても高い関心を寄せ、考察することが重要です。そうすることにより国際社会の諸問題を多角的に捉える力が備わります。進んで情報を収集し、精査し、しっかりとした根拠のもとに自分の考えを持つことを心がけましょう。

最後に、卒業後の自分自身がこうありたいという将来像を描いてみましょう。そうすれば、自分が立命館大学およびアメリカン大学とのジョイント・ディグリー・プログラムでどんな学びをするべきか、本学科での学びが自らの人生にとってどのような役割を果たすかが明確になるでしょう。

以上